



学校だより

2月号

横浜市立六つ川台小学校
平成28年1月29日

ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>

夢を抱き、夢を語る

学校長 柳澤 潤

低学年の子どもたちは、登校するとすぐに霜柱の場所を見つけて踏み始めます。霜柱を踏み続けると、次々に白い部分が広がっていきます。自分の陣地を広げるような楽しさがあり、毎日のように声を上げながら競っています。横浜は、暖冬のお正月から一転、大寒の本格的な寒さとなりました。それでも、学校正門の梅の花がぼつりぼつりと咲き始め、確かな春の訪れを感じることができます。

4・5・6年生は、ラグビーの朝練習を始めています。34名の特別クラブですが、早朝の痛いような寒さに負けず、練習をがんばっています。1月23日の土曜の午後には、本校に別所小学校の児童を迎え、交流試合をしました。試合のたびに技能が高まり、お互いに声も掛け合うようになってきました。2月7日には、横浜スタジアムでの「横浜市立小学校ラグビー交流会」に参加します。大きな舞台上、充分力を発揮してほしいと願っています。

1月25日に実施の『第2回「まち」とともに歩む学校づくり懇話会』の報告をさせていただきます。委員のメンバーは、各町内会の自治会長、青少年指導員、スポーツ推進委員、はまっ子チーフ、PTA会長、職員の代表で構成されています。給食のランチをはさんで、1時間半ほどの会議となりました。米飯の麻婆豆腐のメニューが好評でした。「昔はカレーの時もパンでした。お米が給食に出たときはうれしかったものです」と話されました。皆様が「おいしい、おいしい」といって、すっかり完食されました。給食の安全、衛生管理の厳しさが話題になりました。

はじめに、三石会長より「教育に対する投資ほど効率のよいものはない。これは世界の認識である。長い目で見れば必ず日本の成長につながる。私たちは、学校に協力を惜しまない」とのご挨拶を頂戴しました。ここでは、委員の皆様からいただいたご意見を紹介します。

- ・今の子どもたちは、自己肯定感が低いといわれる。話をしても「ムリ、ムリ（無理、無理）」と、すぐに返答する子がいる。挑戦することに意味があるのに、残念に思う。
- ・はまっ子では、よく子どもたちに話をする。「将来何になりたい、どういうふうにしたい」と聞くと、自分の思いや願いを持っている子どもも多い。
- ・目標や夢を持つと、子どもは伸びていく。「夢を持たせて逆算する」ような、子どもとのやりとりがほしい。小さいと思っていることも大事な夢である。今ほしいもの、やりたいものをはっきりさせてあげたい。
- ・ゲームに夢中、携帯に夢中の現象がある。「やるな」は無理でも、コントロールは必要。例えば9時を過ぎたら携帯の管理は親がするなど、ゲームや携帯は「親が貸し与えている」との認識を持たせておきたい。使い始めの時に、約束事や決まりをきちんと作っておきたい。
- ・安全の視点で、交通の状況はとても悪くなっている。登下校でもおしゃべりしないで気をつけて歩くことは、指導を重ねてほしい。自転車の乗り方を見ても、ひやりとすることがある。安全教育が大事だ。
- ・低学年であっても、「事故のことは、自己で守る」ために判断力を身につけさせたい。
- ・（40冊読書運動があつて）必死に本を読む姿が見られるようになった。
- ・活字を読む習慣を付けたい。絵本の夢の世界に触れるのもいい。家庭学習も習慣となっていることが大事だ。

ご意見の一部ですが、紹介をさせていただきました。教育は希望です。夢を持つこと、夢を語る場を持つことの大切さをあらためて確認しました。最後に教職員に対しては、「入学式、卒業式と、何度か参加させていただいているが、1年生と6年生の変化は大きい。成長した立派な姿を見ることができて、こんなにいい職業はない」との励ましのメッセージをいただきました。

学校説明会でも、保護者・子ども・教職員アンケートの説明や、行事に対する保護者アンケートのご意見を報告させていただきます。

インフルエンザへの警戒が必要な季節です。体調管理には十分留意をしてください。今月もどうぞよろしく申し上げます。